

②

おそれながらごんじょう
「乍恐言上(島田村・西ノ地村境目争論につき)」
明暦4年(1658)8月

宮井家文書中、最も古い古文書です。

切目川河口の砂嘴さしづ(現在の印南町島田・浜畑地区)の領有をめぐる争いで、島田村の庄屋・百姓中が相手(西野地村)の主張への反証を列挙して藩の奉行に訴えた文書の控えです。(途中紙6枚分欠落しています。)

島田村は、藩認可の地先漁場開発・漁業者の移住に伴う自村の寺への檀家登録等を領有の根拠として挙げています。